

《担当者名》 内ヶ島 伸也 ucci@hoku-iryu-u.ac.jp 船橋 久美子 若濱 奈々子 山田 律子

【概要】

加齢や疾患が生活機能におよぼす影響を理解し、高齢者のもてる力を重視した看護を実践するための基礎的能力を身につける。

【学修目標】

1. 加齢や疾患の影響を受けつつも、多様な経験を経て醸成してきた高齢者一人ひとりの健康や生活への価値観を尊重できる。
2. 加齢や疾患によって複合的に起こる身体的・心理的・社会的変化をアセスメントし、高齢者の健康と生活を支えるためのケアを実践できる。
3. 高齢者の健康と生活を支援するための看護職の役割を考慮したうえで、多職種と連携・協働できる。
4. 看護職としての倫理的な行動や専門性を発展させていくことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1週目	受け持ち実習	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢変化や疾患をふまえながら、受け持ち高齢者の情報収集とアセスメントを行う ・高齢者の全体像を把握し、もてる力を重視した看護の焦点を明確にする ・指導を受けながら、高齢者の健康と生活を支えるためのケアを実践する ・実習施設の特徴や多職種との連携・協働を理解する 	内ヶ島・船橋・若濱・山田
2週目	受け持ち実習	<ul style="list-style-type: none"> ・もてる力を重視した看護計画を立案する ・多職種と連携・協働しながら、看護計画に沿って高齢者の健康と生活を支えるためのケアを実践する ・看護計画を評価し、必要に応じて修正する 	内ヶ島・船橋・若濱・山田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

実践内容（30%）、カンファレンスでの発言や実習記録の内容（55%）、倫理的行動（15%）を、ルーブリックに基づいて総合的に評価する。

【教科書】

山田律子・内ヶ島伸也(編)「生活機能からみた老年看護過程」第4版 医学書院, 2020.
北川公子他「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」第9版 医学書院, 2018.

【備考】

- ・実習に関する連絡等はGoogle Classroomを使用する。

【学修の準備】

- ・「老年看護学」「老年病態と看護」「保健医療福祉制度と看護」「老年看護学演習」の学修内容から、老年看護の考え方、加齢変化や高齢者に多い疾患の病態と看護、保健医療福祉制度について、実習前までに確認しておく。
- ・受け持ち高齢者の疾患と治療に関する学修や、ケアを実践するための事前学修を済ませておく（1時間）。
- ・毎日の実践と受けた指導を振り返り、実習記録に学びを整理する（1時間）。
- ・アセスメントから看護計画の立案・評価に至る一連の過程で受けた指導を実習記録に反映する（1時間）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

- DP3. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。
- DP2. 看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。
- DP4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実習方法】

実習期間：3年後期の指定された2週間（2025年9月12日～11月14日）

実習施設：指定された病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設

【実務経験】

内ヶ島伸也(看護師)、船橋久美子(老人看護専門看護師)、若濱奈々子(看護師)、山田律子(看護師、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士)

【実務経験を活かした教育内容】

高齢者看護の実務経験に基づいて、高齢者の生活機能と環境をアセスメントし、看護計画立案とケアの方法を実践的に教育する。ケアの実践においては、看護職以外の専門職からの指導も積極的に受けながら、多職種連携・協働について教育する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している